

# 平成25年度「全国学力・学習状況調査」検証シート

大阪市立此花中学校

生徒数

176人

## 平均正答率（％）

	国語A	国語B	数学A	数学B
学校	67.1	58.1	55.2	33.1
大阪市	72.2	61.0	59.6	37.1
全国	76.4	67.4	63.7	41.5

## 平均無解答率（％）

	国語A	国語B	数学A	数学B
学校	4.5	4.2	7.2	24.1
大阪市	3.6	4.7	7.2	20.9
全国	2.4	2.8	5.3	16.7

## 結果の概要

昨年度より国語・数学ともに平均正答率は向上しているが、市と比べ最大5ポイント、全国とでは8ポイントの差がある。今後もさらに「基礎基本の定着」と「応用力の強化」に努めたい。生活面においては「家庭学習の習慣化」のポイントが大幅に低く自学自習の方法や家庭学習の重要性の意義付けをしっかりと行いたい。

## これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

本校の課題は「学力向上」である。

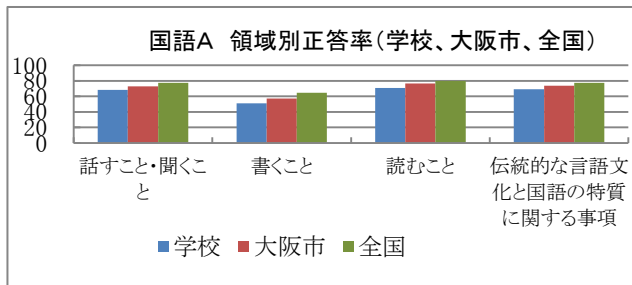
課題克服のために以下の方策で取り組んでいる。

1. 基本的な生活習慣を改善するため、学校における生活指導を確立して、学習することが当たり前とする学校生活、家庭生活を含む中学校生活を浸透させる。
2. 基礎学力定着のために、継続して習熟度別少人数授業や学力補充の体制を作る。
3. 学習教材を精選し、家庭学習（宿題）の定着、生活の中に学習を位置つかせ、日々の着実な学習習慣による学習定着を図る。
4. 教員の授業力向上のために相互授業参観による意見交換や研究授業や公開授業を積極的に行い教員の授業力アップを図る。
5. キャリア教育の深化充実に努め、生徒の内面的な向上心を育成する。
6. 年間を通じた学校行事や部活動、生徒会活動等で生徒主体の取り組みを行い、意図的に確実な達成感を持たせ、自己肯定感を向上させ、その結果を学力向上につなげる。
7. 保護者との密接な連携をする。PTA実行委員会や保護者集会等さまざまな場面で学校の方針を発信し理解を得、学校生活や家庭生活の改善を促す。
8. 校区小学校との積極的な連携を図り、小中間における学力向上対策や生徒指導体制の共有化を図る。
9. 地域連携の強化。開かれた学校として地域に情報を発信し、地域とともに生徒の健全育成に努める。

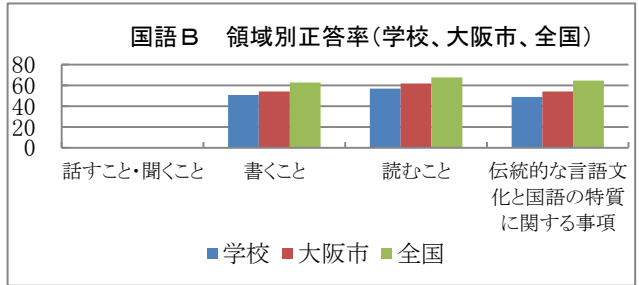
## 【国語】

**結果の概要** 国語の全体の平均正答率は市との比較では5ポイント下回っている。情報を読み取り的確に表現する力をつける必要がある。

A 問 題			平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領の 領域等	話すこと・聞くこと	4	68.5	73.1	77.6
	書くこと	4	51.1	57.3	64.5
	読むこと	6	70.9	76.8	80.0
	伝統的な言語文化と国語 の特質に関する事項	18	69.0	73.9	77.5

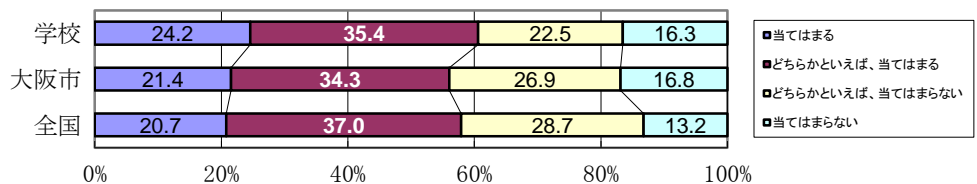


B 問題			平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領の 領域等	話すこと・聞くこと	0	—	—	—
	書くこと	3	50.8	54.0	62.7
	読むこと	8	57.0	61.9	67.8
	伝統的な言語文化と国語 の特質に関する事項	1	48.9	54.2	64.6

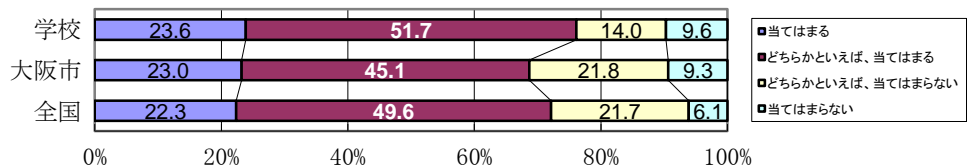


## 国語に関する「生徒質問紙」

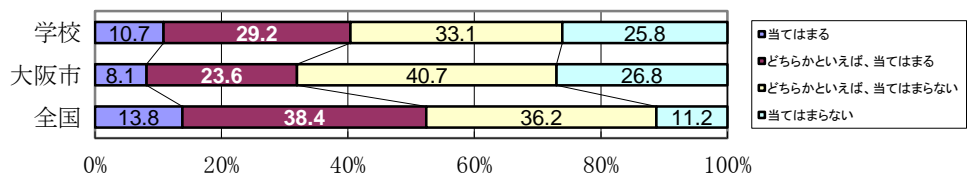
I 53 II 52 III 63
国語の勉強は好きですか



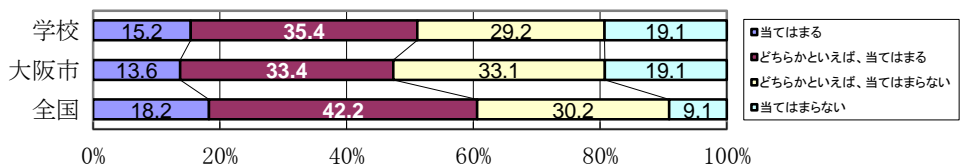
I 55 II 54 III 65
国語の授業の内容はよく分かりますか



I 58 II 57 III 68
国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか



I 60 II 59 III 70
国語の授業で自分の考えを書くと、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか



## 成果と課題

教員による工夫した授業の実践により「国語の勉強は好きだ」「授業はよくわかる」という割合が市や全国よりも高い反面、実力の定着に結びつかないのは、家庭での宿題や予習、復習などの家庭学習の割合が極端に低いことに起因を要する。

## 今後の取組

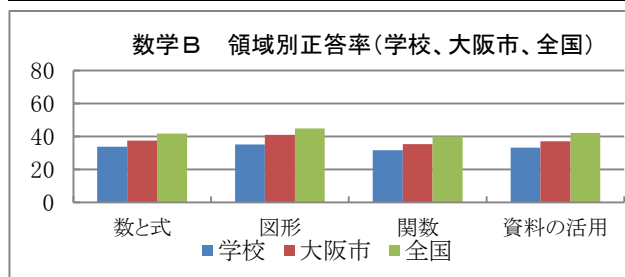
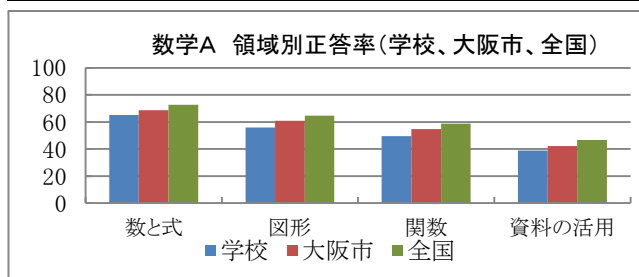
習熟度別授業などやきめ細かな指導を通して基礎学力の定着を図り、その上で応用力(とりわけ、読解力と表現力)をつける。家庭学習の習慣化を図るため自学自習の指導を徹底し家庭学習の習慣化に努める。

## 【数学】

結果の概要 市や全国との差は昨年の結果よりも縮まっているものの、市とは最大5ポイント全国とは8ポイントの差がある。さらにきめ細かな授業展開に努める。

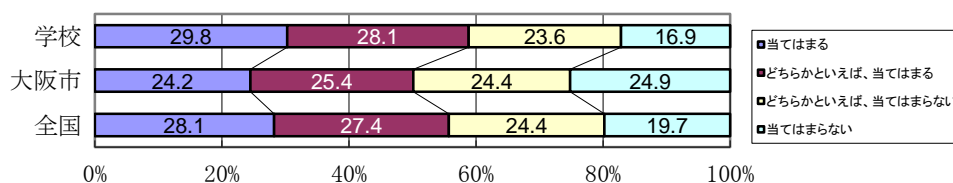
A 問題			平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領の領域等	数と式	11	65.1	68.6	72.7
	図形	12	55.9	60.8	64.6
	関数	9	49.6	54.7	58.7
	資料の活用	4	39.0	42.3	46.8

B 問題			平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領の領域等	数と式	5	33.9	37.6	41.7
	図形	2	35.1	41.0	44.8
	関数	6	31.6	35.4	40.0
	資料の活用	3	33.3	37.1	42.2

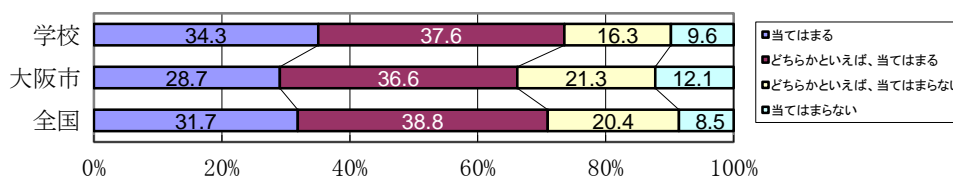


## 数学に関する「生徒質問紙」

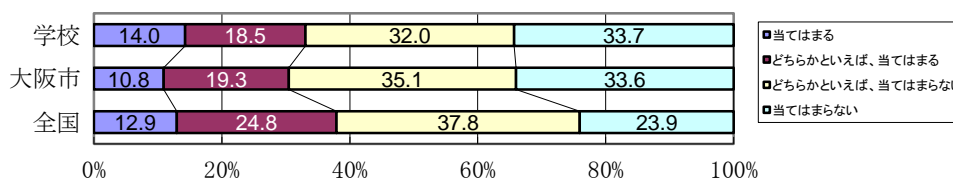
I 73 II 62 III 73
数学の勉強は好きですか



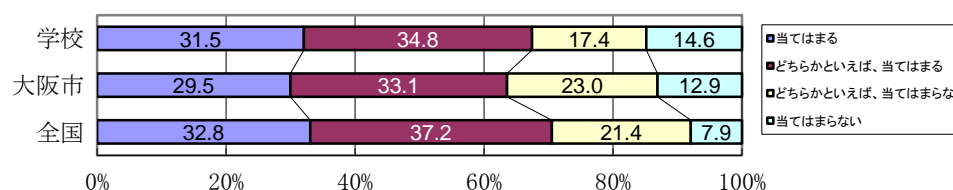
I 75 II 64 III 75
数学の授業の内容はよく分かりますか



I 78 II 67 III 78
数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか



I 81 II 70 III 81
数学の授業で公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしていますか



## 成果と課題

国語同様、「数学の勉強は好きだ」「数学の授業はよくわかる」というアンケートの割合は市や全国よりも高く教員によるわかる授業や興味ある授業展開がなされているが、「家庭での宿題や予習復習をやっている」割合が極端に低い実力の定着にはいたっていない。

## 今後の取組

習熟度別授業の指導改善や放課後補充が学習などの基礎学習の定着を図る。家庭学習の習慣化のために自学自習の効果的な方法を指導する。

## 基本的生活習慣・自尊感情・規範意識

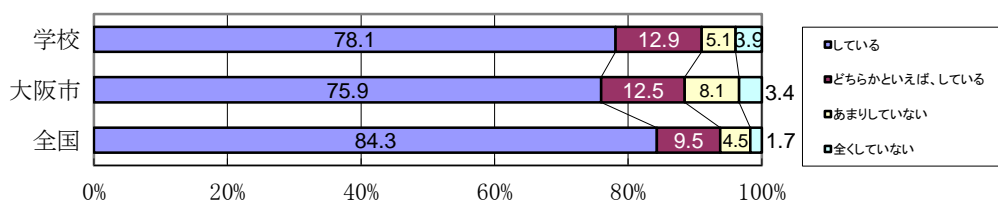
**結果の概要** アンケート結果より大部分の生徒が基本的生活習慣が定着し、自尊感情、規範意識も高い数値を示しているがさらに指導を重ね高い数値になるよう努力する必要がある。ただ、数字にはないが携帯電話やスマートフォンでの通話やメールしている時間が極端に多いことから、家庭での学習時間の減少につながっていることがわかる。保護者を巻き込んでの粘り強い指導が指導が不可欠である。

質問  
番号

質問事項

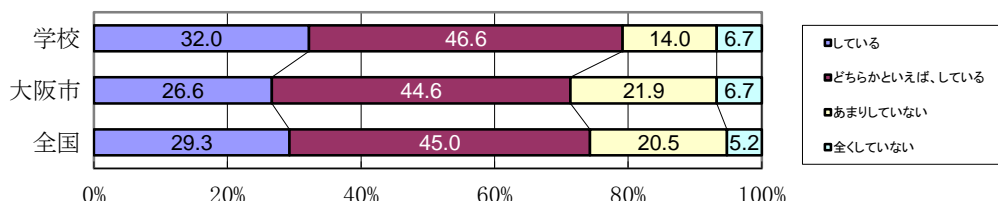
I 1 II 1 III 1

朝食を毎日食べていますか



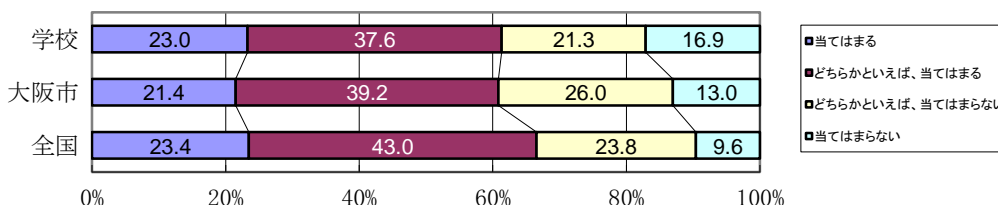
I 2 II 2 III 2

毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか



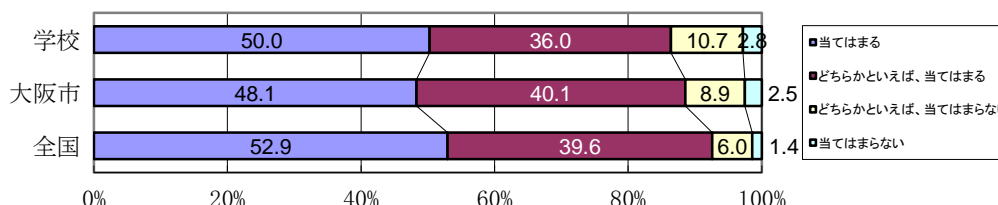
I 6 II 6 III 6

自分には、よいところがあると思いますか



I 44 II 41 III 45

学校の規則を守っていますか



### 成果と課題

本校の課題である「学力向上」と「規範意識の確立」に向けて教職員が常に共通理解を図り指導をしている成果が数値に表れている。しかし、きまりを守れぬ一部の生徒への指導と保護者の協力の得られぬことも多い。

### 今後の取組

様々な場面での生徒指導の徹底を図る。道徳教育の充実をはかりその学習内容を実践的に改善し自分を大切にするとともに他人も大切にする豊かな心を育てる。また、職業体験や保育実習などの体験活動を通してキャリア教育の充実を図る。

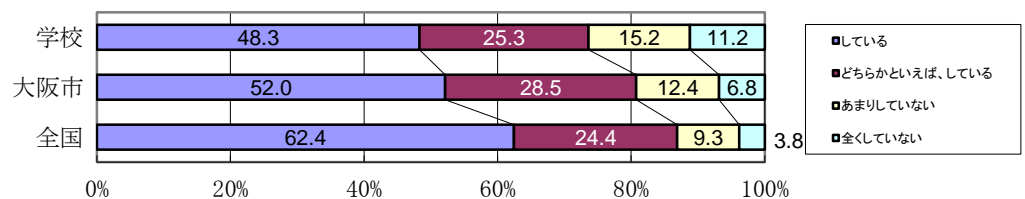
## 家庭学習・読書・学びの質の改善：言語力の育成

**結果の概要** 国語・数学の部分でも述べたが、「家で学校の宿題をやっている」「家で授業の復習をしている」という問いに対しての割合が市や全国に比べ大幅に低い。学力の定着に向けて克服しなければいけない大きな課題である。

### 質問 番号 質問事項

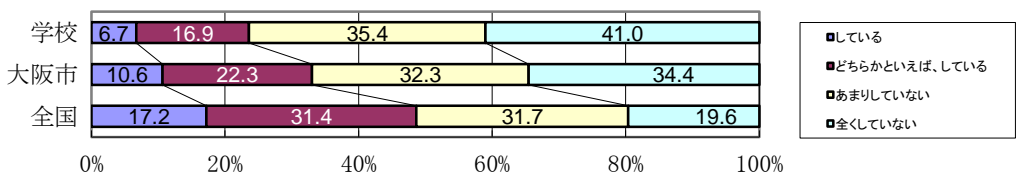
I 30 II 25 III 35

家で、学校の宿題をしていますか



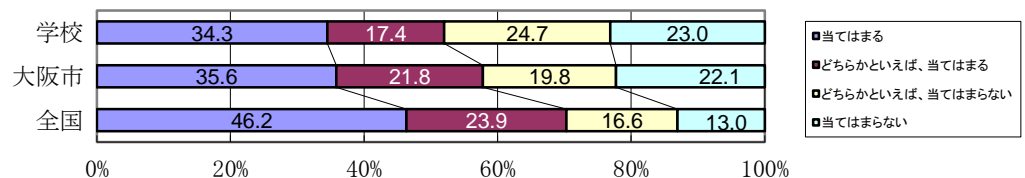
I 32 II 27 III 37

家で、学校の授業の復習をしていますか



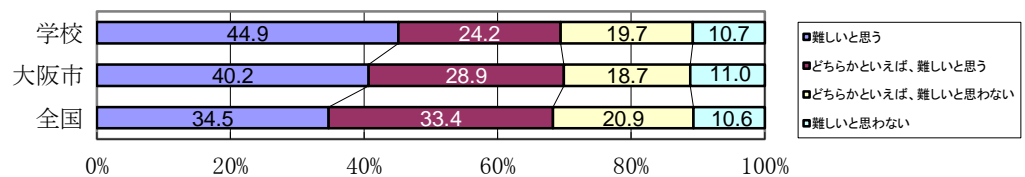
I 56 II 55 III 66

読書は好きですか



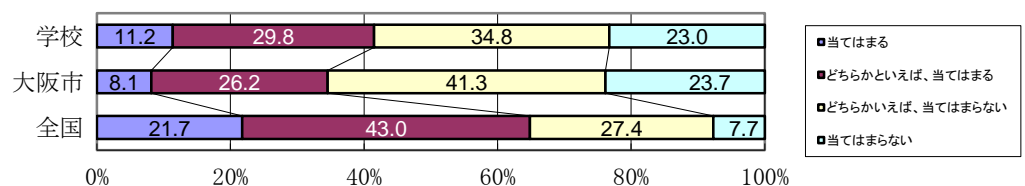
I 52 II 51 III 61

学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章を書いたりすることは難しいと思いますか



I 50 II 48 III 57

普段の授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていると思いますか



### 成果と課題

家庭学習において自ら進んで家庭学習に取り組めていない傾向が強い。家庭学習のサポートや宿題のあり方などを検討する必要がある。読書については昨年よりも読書好きが増加している。

### 今後の取組

朝の読書週間や読み聞かせなど読書活動を通して言語力や読解力、コミュニケーション能力を育てる。家庭学習のサポートとして学校ボランティアによる放課後学習に取り組む必要がある。